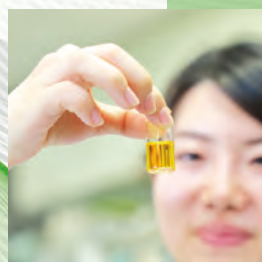


T o k y o U n i v e r s i t y o f S c i e n c e

Faculty of Pharmaceutical Sciences
Department of
Pharmacy



東京理科大学薬学部
| 薬学科



Department of Pharmacy

薬学部 薬学科

薬学全般に亘る幅広い知識と技能を備え、
病院や薬局などの医療現場や企業等で活躍することのできる高度な問題解決能力と
豊かな人間性を備えた人材の育成を目指します。
定員100名の少数精鋭に対して、
東京理科大学の伝統である実力主義に基づいた密度の高い教育を実施します。

薬学科の理念

「医薬分子をとおして人類の健康を守る」という薬学部理念に基づき、高度化する医療に対して貢献することのできる知性と倫理観を持ち、研究心にあふれた高度な薬剤師（医療人）の養成を目的としています。そのために、薬の性質と作用、薬物治療、医薬品の適正使用、公衆衛生等の薬剤師の職能の基盤となる専門的知識及び関連する技能、態度を習得します。さらに、生命の尊厳と患者の苦しみを知る人間性を培うとともに、国民の健康と福祉を守るうえで重要とされる医薬品の安全で適正な使用と医療過誤等に対する適切な問題解決能力を養うことを教育目的とします。

●学科の特徴

薬学科は高度化する医療に適切に対応できる研究心を兼ね備えた薬剤師の育成を目指しています。

●学びの特徴

薬学科は徹底した基礎教育、クスリの作用に関する総合情報科学を中心とした薬学専門教育、充実した施設と医療機関との連携による実践的薬剤師職能教育を実施します。
また、卒業研究を通して、実践能力と問題解決能力を育みます。

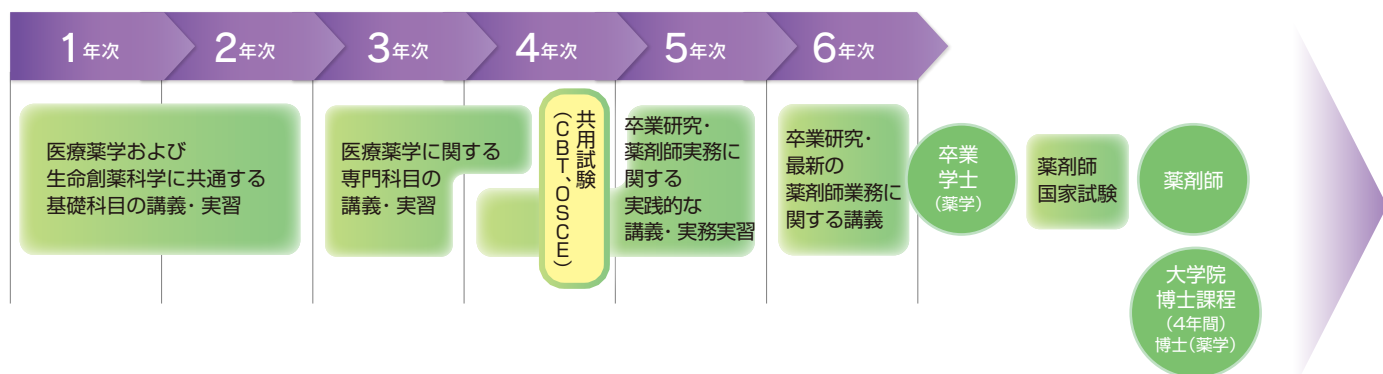
●入学者の受入れの方針【アドミッション・ポリシー】

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力に加えて、人類の健康を守ることを通じて社会に貢献しようとする志を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人。
2. 医療現場で活躍することを通じて、広く国民の健康と福祉を守ろうとする意欲と、将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人。
3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。
を多様な選抜方法により広く求める。

3つの方針についての詳細は、本学 HP (<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/#housin>) をご参照ください。

卒業までのステップ&卒業後の進路



卒業後の主な進路

- 病院薬剤師 ●薬局薬剤師 ●医薬品製造管理者(製薬企業)
- 創薬研究者(企業・大学・研究機関等) ●開発担当者(製薬・化粧品・食品等)
- 生産技術者(製薬・化学工業等) ●医薬情報担当者(MR)
- 国家公務員・地方公務員 など

カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
一般教養科目	英語／中国語／ドイツ語／フランス語／心理学／科学史／生命科学入門／データサイエンス・AI 概論 など					
創薬科学	分析化学／薬品物理化学／薬剤学／バイオインフォマティクス／ゲノム創薬科学／医薬品化学 など			共用試験（CBT、OSCE） 薬学科卒業研究		
生命薬学	薬用植物学／生薬学／漢方概論／機能形態学／微生物学／分子生物学／免疫学／薬理学／放射科学 など					
環境・衛生薬学	生活環境と健康／化学物質の生体影響／裁判化学／集団の健康と疾病予防 など					
医療薬学	薬学史／疾病と病態／生物統計学／医療の倫理／薬剤師と法律／調剤学／医療安全学／臨床製剤学／レギュラトリーサイエンス／薬学データサイエンス／病院実習／薬局実習 など					
総合薬学	早期体験学習／薬学英语／薬学科卒業研究 など					



教員紹介

Faculty Members

[五十音順]



QRコードを読み込んで先生のホームページへアクセス！

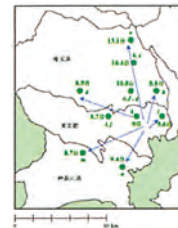
バーコード読み取り機能がついたスマートフォン・カメラ付き携帯電話で読み取ることによって簡単にアクセスできます。

磯濱 洋一郎
教授研究室名：磯濱研究室
専門分野：呼吸器病態生理学・
呼吸器薬理学・漢方薬理学
研究分野：応用薬理学

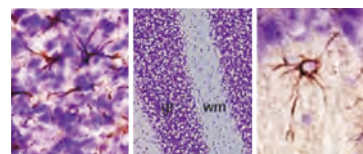
本研究室では気管支喘息やCOPDなどの慢性炎症を基礎とする難治性呼吸器疾患の治療法を確立するために、病態が形成される仕組みや一定の効果が期待できる薬物の作用を調べています。特に、気道分泌を正常化するための新規標的分子の探索や漢方薬等の伝統医薬品に隠された薬理学的特徴の解明を通じて、新たな治療概念の提唱を目指します。

伊集院 一成
嘱託教授(みなし専任)研究室名：伊集院研究室
専門分野：社会薬学・医療薬学・
ヘルスヴィジランス
研究分野：薬局管理学

医薬品の使用量を通して地域住民の健康状態を捉える概念をヘルス・ヴィジランス(Health Vigilance)と呼びます。医薬品使用量を解析し、地域住民の健康状態を捉え、薬剤師が薬局を通して地域住民に向けて発信すべき情報を探究していきます。また、IoTを活用した薬剤師支援システムに関する研究を行います。

市原 学
教授研究室名：市原研究室
専門分野：環境労働衛生学・神経毒性学・
分子予防医学
研究分野：衛生化学

環境要因によって引き起こされる病気を予防するために、化学物質のヒト中枢神経への影響・発がん性の仕組みを明らかにする研究を行っています。研究ではヒト、実験動物、培養細胞というさまざまなレベルの系、医学・分子生物学・化学的手法を用います。

後藤 了
教授研究室名：後藤研究室
専門分野：薬品物理化学
研究分野：情報物理化学

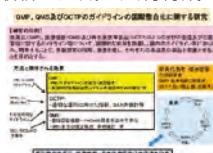
有機化学では分子は亀の甲で表します。量子化学では原子核と電子雲の集合体です。けれども、幾何学的な図形なのだと思って構造式を見ていると、医薬品分子がまるで器械体操をしているかのようにダイナミックに動きまわる様子が見えてくるのです。その動きがあるからこそ、生物活性があり、そして医薬として治療効果があるのかもしれません。コンピュータやNMRやX線結晶解析でそんな研究に取り組んでいます。

斎藤 顕宜
教授研究室名：斎藤研究室
専門分野：精神・神経薬理学
研究分野：行動薬理学、創薬薬理学、
神経科学

薬理学は、身体の仕組みを理解しながら、薬が持つ生体機能への影響を解析する学問です。本研究室では、こころと脳の病気、例えばうつ病や不安症、依存症がなぜ起きるのかを研究しています。病気のモデル動物・組織・細胞を用いた実験により、脳内の神経回路や関連する物質・分子を理解し、新しい治療薬・予防法の開発を目指しています。

櫻井 信豪
嘱託教授研究室名：櫻井研究室
専門分野：レギュラトリーサイエンス(医薬品等品質・GMP)
研究分野：医薬品評価学(医薬品、再生医療等製品の品質確保に関する研究)

医薬品や再生医療等製品の品質確保は、製造所の製造管理や品質管理の基準を明確にし、それを製造現場で運用することが大切です。科学や学問の進歩や国際化の観点からこの基準を研究し、行政機関と製造業者等に明示し、規制の調和(レギュラトリーサイエンス)を図ること、さらに得られた最新の知識を人材育成に繋げることを研究室の課題としています。最終的に患者さんの安心・安全を目指した総合的な研究活動を行います。

鹿野 真弓
教授研究室名：鹿野研究室
専門分野：医薬品評価学
研究分野：レギュラトリーサイエンス、
医薬品規制

レギュラトリーサイエンスは医薬品等の開発や使用の膨大な経験に基づき「科学技術を人間の調和のうえで最も望ましい形にレギュレート(調整)する科学」として提唱されました。革新的技術の特徴に応じた品質・有効性・安全性評価の考え方を整理し医療に役立てるとともに、製品の開発・流通のグローバル化も踏まえて、製品のベネフィット・リスク比の向上を目指す活用法の国際的コンセンサス形成を目指します。



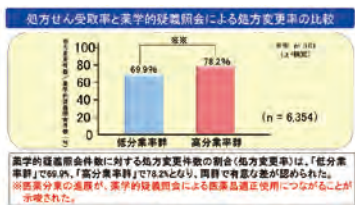


鹿村 恵明

嘱託教授 (みなし専任)

研究室名：鹿村研究室
専門分野：医療薬学・社会薬学
研究分野：薬局管理学

薬局機能に関する研究を通して、全国の薬局の実態を「見える化」し、不足している部分を補い、長所を伸ばすPDCAサイクルの実施につなげて、薬局業務の質を高め、国民の健康に貢献することを目的としています。

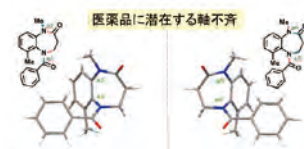


高橋 秀依

教授

研究室名：高橋研究室
専門分野：薬化学
研究分野：創薬化学、臨床医薬品化学

医薬品の構造に潜在している軸不斉を表出させ、より良い医薬品をつくる創薬化学研究に取り組んでいます。癌やアルツハイマー病、希少病である Menkes 病の治療薬の開発など、「薬をつくりたい」という思いを胸に研究に励んでいます。

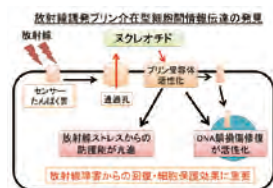


月本 光俊

教授

研究室名：月本研究室
専門分野：放射線生物学
研究分野：放射科学

放射線生物影響には未解明な点が多く、放射線治療向上のためにはその分子メカニズムを解明する必要があります。当研究室では、放射線の細胞作用メカニズムを明らかにし、放射線治療の改善・向上に繋がってほしいと考えています。



西川 元也

教授

研究室名：西川研究室
専門分野：生物薬理学・薬物動態学
研究分野：生物薬理学・ドラッグデリバリーシステム

疾患治療を目的として生体に投与される「クスリ」がその機能を最大限発揮するには、クスリとヒトとの相互作用の解明が必須です。本研究室では、疾患治療の最適化に向けて、生物薬理学・薬物動態学などの学問を基盤として、クスリの体内動態を精密に制御可能なデリバリーシステムの開発研究に取り組んでいます。

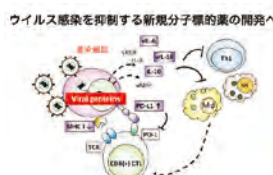


野口 耕司

教授

研究室名：野口研究室
専門分野：感染分子標的学
研究分野：生物系薬学、ウイルス学、腫瘍治療学

感染症、例えば風邪症状や季節性インフルエンザなどでは、それぞれに特異的な分子を標的とする抗生剤や抗ウイルス薬が処方されます。がんの薬物治療では、がん特異的な分子機構を標的とする特別な抗がん薬が処方されることがあります。また、ウイルス感染が原因となるがんもあります。このように感染症やがんの治療薬には、それぞれの原因に特異的な分子機構を標的とする抗がん薬や抗ウイルス薬が開発されています。本研究室では、ウイルス感染症やがんの特異的な分子機構を明らかにし、創薬へ繋げる「分子標的創薬」を目指しています。



羽田 紀康

教授

研究室名：羽田研究室
専門分野：生薬学・漢方医薬学
研究分野：生薬学・天然物化学・糖化学

我々は「自然が生み出す天然物を、人の健康に役立てる」ことを目標に以下の研究を行っています。

1. 薬用植物の薬用部位、生育時期の違いによる成分変動解析
2. 漢方薬の有効性を成分の相互作用から解明
3. 機能性植物の成分探索
4. 生物活性を有する糖鎖の合成

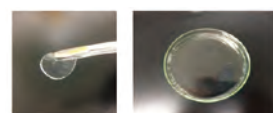


花輪 剛久

教授

研究室名：花輪研究室
専門分野：製剤工学、臨床製剤設計学
研究分野：臨床製剤学

科学の粋を集めて開発された優れた医薬品も正しく投与されなければ薬物治療は成功しません。私たちの研究室は、薬物治療の個別化を成功させるための“オーダーメイド製剤”、そして、広い世代の患者さんが服用・使用できる“患者に優しい製剤”の開発について研究しています。これまでにジルコニアビーズを用いた医薬品の微粒子化、ハイドロゲル、フィルムなどの製剤設計に取り組んでいます。

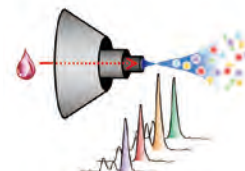


東 達也

教授

研究室名：東(達)研究室
専門分野：臨床分析科学
研究分野：分析科学

被検者の負担の少ない試料(例えば唾液や1滴の血液)からピコグラムレベルの生体分子を検出し、その情報を診断や治療に役立てる—クロマトグラフィーと質量分析を駆使し、また新しい分析試薬を開発してこの課題にチャレンジしています。

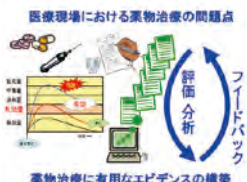




真野 泰成
教授

研究室名：真野研究室
専門分野：医療薬学・臨床薬理学・
医薬品情報学
研究分野：臨床薬情報学

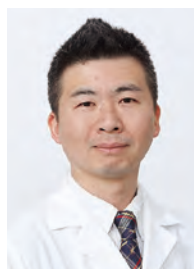
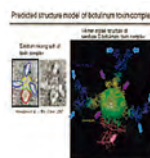
本研究室では臨床現場で直面するさまざまな問題点を抽出し、その問題点の解明とともに新たな薬学的エビデンスを構築し臨床にフィードバックすることを目指しています。医薬品の体内動態や薬効・副作用を考慮した最適な投与設計法の開発や、大規模医療データベース（いわゆる医療ビッグデータ）を利用した医薬品適正使用に関する研究を行っています。



宮崎 智
教授

研究室名：宮崎研究室
専門分野：バイオインフォマティクス・
分子生物学
研究分野：生命情報科学

ゲノム上の遺伝子データをはじめとする大量な生物学的データから創薬の糧となり得る新規の知識を、データベースと計算機上のシミュレーションを駆使した仮想実験から抽出することを目指しています。創薬情報科学の創造を目指す研究を行っています。これは、これまでの実験生物あるいは実験化学と協調する計算機科学の新分野を構築する試みとして注目を集めている新領域です。コンピュータ科学と創薬を融合する架け橋となると思われます。



吉澤 一巳
教授

研究室名：吉澤研究室
専門分野：緩和医療薬学・臨床精神薬理学
研究分野：疾患薬理学

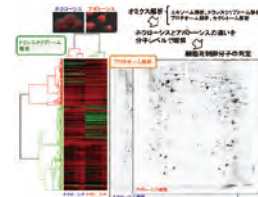
日本の死亡原因第1位は悪性新生物、つまり“がん”です。したがって、がん治療・がん研究の発展は日本にとって急務な課題です。そのがん治療と両輪をなす緩和医療とは、がん患者の抱える痛みやつらさに耳を傾け、その症状を緩和する医療です。本研究室では、緩和医療の中心である“こころとからだの痛み”に焦点を当てた薬学研究を行っています。



佐藤 聡
准教授

研究室名：佐藤(聡)研究室
専門分野：細胞死制御、腫瘍生物学、
核酸化学
研究分野：生化学、分子生物学

細胞がネクローシス（壊死）で死ぬかアポトーシス（プログラムされた細胞死）で死ぬかを決定づける制御機構の詳細は明らかになっていません。この仕組みの理解は、新たな抗がん剤の開発に繋がると考えています。



佐藤 嗣道
准教授

研究室名：佐藤(嗣)研究室
専門分野：薬剤疫学・医薬品リスク管理・
社会薬学
研究分野：医薬品情報学

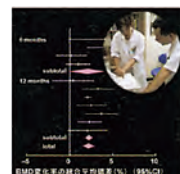
最善の治療法を選択するには、薬のベネフィット（期待される効果）とリスク（副作用の可能性）を評価することが必要です。そして、より適切な使い方によりリスクを減らすことができます。本研究室では、医療現場で実際に使われている薬のリスクを評価し最小にすることを目的とした研究を行っています。



嶋田 修治
准教授

研究室名：嶋田研究室
専門分野：医薬品情報学・臨床薬理学
研究分野：医薬品評価学

先端技術の結晶である医薬品は、モノ（薬剤）と情報がそろったときに初めてその真価を発揮しますが、十分な情報が医療現場に提供されていない場合もあります。医薬品情報を適正に収集、評価および提供できる薬剤師は、患者の安全を守る最後の砦になるでしょう。本研究室では、医薬品の適正使用に向けた情報を医療現場に提供することを目指しています。



研究施設紹介

●医療薬学教育研究センター

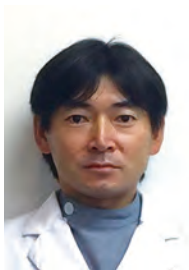


薬学科（6年制）では、5年次に病院と薬局での実務実習を行うため、その前の4年次に薬剤師業務について実習する医療薬学実習が必修科目となっています。この実習は、調剤実習室、模擬薬局、病棟実習室、無菌調剤実習室、製剤実習室、プレナリー室、情報教室などを完備した医療薬学教育研究センターで実施します。これらの施設は、薬学共用試験のOSCE、認定実務指導薬剤師養成および地域薬剤師の生涯研修など多目的に使用されています。

●薬用植物園（薬草園）



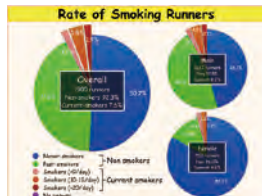
薬学部は薬用植物園を設置することが義務付けられており、本学では野田薬学部キャンパスの南側にあります。ここでは漢方薬の構成生薬や医薬品原料となる基原植物約700種を見ることができ、学生実習の教材や、研究素材も栽培しています。また、学部講義・実習や生涯学習における薬草観察の場として提供され、生きた教材に触れられます。



鈴木 立紀
准教授

研究室名：鈴木研究室
専門分野：臨床薬理学・健康スポーツ科学・
スポーツ内科学
研究分野：臨床病態学

今後予想される超高齢化社会ではいかに健康寿命を延ばすかが重要で、生涯スポーツの拡大や禁煙化の推進もその一翼を担うと期待されています。本研究室では薬学的な視点から、生涯スポーツ愛好家がより健康にスポーツに取り組めるため、また、療養型病院の入院患者がより健康に入院生活を送れるための研究を行っています。



高澤 涼子
准教授

研究室名：高澤研究室
専門分野：分子生物学
研究分野：医療分子生物学

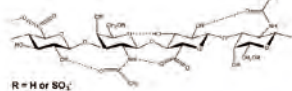
がん治療において、抗がん剤耐性がん細胞にも高い効果を示し、がん細胞特異的に作用する治療薬の開発が求められています。私共は、がん細胞の生存・増殖維持に重要な役割をもつタンパク質をターゲットとし、in silico創薬手法を用いて新規分子標的制がん剤リード化合物の創製を目指します。



東 恭平
准教授

研究室名：東(恭)研究室
専門分野：病態分析化学
研究分野：病態分析化学、病態生化学

私たちの身体を構成するタンパク質の約7割に糖鎖が付加されていますが、構造に多様性があるため分析が難しく、その機能はほとんど明らかになっていません。本研究室では、信頼性が高く高感度な糖鎖分析法を駆使し、生体試料から抽出した糖鎖構造の解明とその機能性を調べています。更に、新しい微量分析法の開発に挑戦し、疾患に伴う糖鎖構造の変化から病態メカニズムの解明を目指しています。



河野 洋平
講師

研究室名：河野研究室
専門分野：薬剤疫学・薬物動態学・分子生物学
研究分野：薬物治療学

当研究室では、薬を使う上での問題点の解決方法や新たな使い方の探索研究を基礎研究と臨床研究の両方の視点から行っています。臨床薬学研究の醍醐味は、臨床現場で得た薬物治療における様々な疑問や問題点を追求し、薬物の特性を理解することで、それらがどのように生体に作用するかを明らかにすることです。こうして得られる知見は、創薬や育薬に貢献します。私達は、これまでに得た大学病院での薬剤師としての実務経験と研究経験を生かし、研究指導を通して臨床と研究の両分野に精通した人材の育成に尽力したいと考えています。

安元 加奈未
講師

研究室名：安元研究室
専門分野：天然物化学・薬用植物学
研究分野：天然医薬資源学

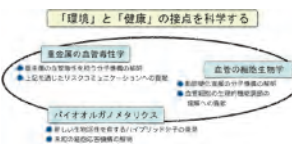
古来から植物は人間の衣食住に深く関わり、医薬資源としても重要な役割を果たしてきました。植物が作り出す未知の化学物質は、薬として利用できる可能性があります。本研究室では、難治性熱帯感染症（リーシュマニア症）に対して有効な植物の化学成分を探索し、治療薬に繋げることを目標にしています。また、熱帯地域などで伝統的に医療に用いられている薬用植物について、有効成分とその機能の解明などにも取り組みます。



藤江 智也
講師

研究室名：藤江研究室
専門分野：環境健康学
研究分野：衛生化学

心血管疾患は世界的に主要な死亡原因のひとつであり、その予防は先進国共通の公衆衛生学上の重要問題です。本研究室では、血管に焦点を当て、環境汚染金属の毒性発現機構の解明に取り組むとともに、その基盤となる血管細胞の応答機構の解明も行なっています。さらに、有機-無機ハイブリッド分子の生命科学への応用-バイオオルガノメタリクス-も世界に先駆けて展開しています。これらを通じて、血管病変の発症機序の解明および予防・治療への貢献を目指しています。

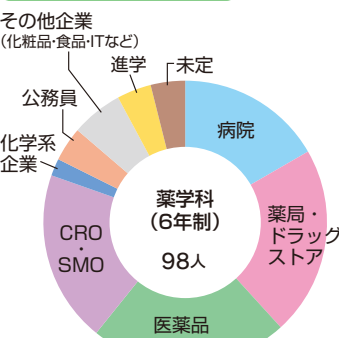


山田 大輔
嘱託特別講師

研究室名：高藤研究室
専門分野：神経生理学、行動神経科学、自律神経学、脂質栄養学
専門分野：薬理学

不安や恐怖などの「情動」を対象に、こころを司る生体システムについて研究しています。たとえば、栄養バランスやストレスによって、脳の神経細胞や神経細胞同士のつながり（神経回路）、また末梢臓器と脳の間でおこる自律神経を介した情報のやり取りがどう変わるのか、その結果として情動がどう変化するかについて、個体全体を幅広く解析することにより、こころがどのようにして作られるのか、こころの病気とは何かがどう変化した状態なのかを明らかにすることを目指しています。

進路データ(2023年)



薬学科の主な就職先(2023年)

【病院】

東京大学医学部附属病院／東京医科歯科大学附属病院／千葉大学医学部附属病院／順天堂大学医学部附属順天堂医院／横浜市立大学付属市民総合医療センター／名古屋大学医学部附属病院／筑波大学附属病院／自治医科大学附属病院／昭和大学病院

【薬局・ドラッグストア】

アインファーマシーズ／クオール／日本調剤／ウエルシア／マツモトキヨシ／トモズ

【臨床開発(CRO・SMO)など】

IQVIAサービシーズジャパン／エイツヘルスケア／メディサイエンスプランニング／アスパークメディカル

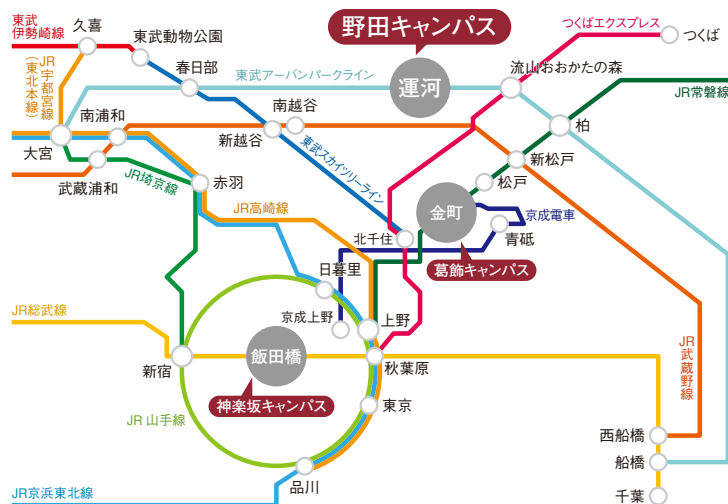
【製薬企業・化学工業・食品】

アステラス製薬／大塚製薬／協和キリン／小林製薬／シオノギヘルスケア／第一三共／大正製薬／田辺三菱製薬／大日本住友製薬／中外製薬／ツムラ／日本新薬／ファイザー

【学術研究・行政機関など】

医薬品医療機器総合機構(PMDA)／厚生労働省／防衛省／財務省／長野県

ACCESS



東武アーバンパークライン「運河駅」下車 徒歩 12 分

- 秋葉原駅から 【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 32 分]
- 東京駅から 【JR 山手線】秋葉原駅 乗り換え
【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 38 分]
【JR 山手線】上野駅 乗り換え
【JR 常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 49 分]
- 上野駅から 【JR 常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 40 分]
- 新宿駅から 【JR 中央・総武線】秋葉原駅 乗り換え
【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 49 分]
【JR 山手線】日暮里駅 乗り換え
【JR 常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 60 分]
- 千葉駅から 【JR 総武線】船橋駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 58 分]
- 大宮駅から 【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 49 分]
- つくば駅から 【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約 27 分]

※乗換え時間は含みません

2025 年 4 月に野田キャンパスから葛飾キャンパスへ移転予定



東京理科大学

薬学部 入試に関するお問い合わせ先
入試課 TEL: 03-5228-7437

薬学事務課: 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 TEL: 04-7121-3691 FAX: 04-7121-3608

[大学 Web サイト] <https://www.tus.ac.jp/>

[薬学部 Web サイト] <https://www.ps.noda.tus.ac.jp/>